

# 学生参画による地域活性化を振り返って — 着目の視点から —

井形 元彦<sup>1,\*</sup> 桂 信太郎<sup>2,\*\*</sup>

(受領日: 2017年5月8日)

<sup>1</sup> 高知工科大学情報学群

〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

<sup>2</sup> 高知工科大学経済・マネジメント学群

〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

\* E-mail: igata.motohiko@kochi-tech.ac.jp

\*\* E-mail: katsura.shintaro@kochi-tech.ac.jp

**要約:** 大学主催のセミナーや学生のインターンシップという場で地域企業と接する機会が多い。その際、企業から経営の在り方に関する支援やもっと若い世代の意見を求めたいなどの相談を受けることがある。また、学生が自ら団体を立ち上げて地域に貢献しようとしている場合もある。地方に位置する大学としては、地域の活性化に貢献するとともに、実課題解決を志向した教育研究活動に学生参加の形をとることで、社会から求められる人材を育成・輩出することも狙っている。本稿では、企業の経営方向付け支援や地域活性化を目的とした学生、教員による取組み実例を、着目視点及び研究アプローチの観点から紹介する。また、学生の自主性を重んじた教員のかかわりにもふれる。

## 1. はじめに

地域を支える地元のスモールビジネスには、先の見えない漠然とした不安を抱えながらも、日ごろのルーチンワークをこなしているという企業が少なくない。こうした中で、ビジネスの基本に立ち返り、自社の過去と現在を整理検討し、ビジネスを捉え直したいという企業もある。大学生という若者のアイデアに触れながら事業のヒントを得たいという事業者もいる。

高知工科大学では、こうした企業や自治体との関わりに積極的に学生が参加できるよう、ゼミ活動に注力している。「学生が地域企業や自治体と密接に関わり合いながら、社会に対する問題認識を高め、積極的に関わる行動力を身に付け、社会人としての心構えを培う経験をすることができること」も狙いの一つとして活動を進めている。

地方大学においては、こうした地域企業とのかかわりを深め、地域ニーズに合った教育研究を通じて

全国から求められる人材を輩出して行く役割を担うことも重要である。さらに、地方大学の役割の一つに、大学を中核とした地域活性化システムの構築もあると考える。

本稿では、経営学・地域活性化の研究者である経済・マネジメント学群の桂教授と製鐵会社にてシステム化に長年携わってきた井形という経験・専門の異なる筆者らが推進してきた学生参加の地域活性化の取組みを紹介する。あわせて、学生の自主性を重んじた教員のかかわり方にもふれる。

## 2. 学生の活動をいかに支えるか

### 2.1 活動のきっかけ作り

高知工科大学では、自ら地域に入って活動している学生も珍しくはない。たとえば、農業を実践する学生団体を立ち上げ補助金を確保して農作業から販売までを行ったり(表1のNo.7)、観光客を呼び込むための情報誌を仲間と発行したり(表2のNo.10)するなどの取組みがある。そのような場

合は、それをさらに活発に進めることができるように、活動の進め方や研究（卒論）につながるアプローチを筆者らが助言している。

また、経済・マネジメント学群では、2年、3年にインターンシップの場を提供しており、インターンシップ先の企業での活動を契機に、地域活性化の継続的な活動に結びつけさせていただくこともある。つまり、断続的ではあるが長期間（たとえば1年間程度）にわたって学生が企業・団体に外向き活動とともにさせていただくこともある（表2のNo. 11、No. 17など）。

その他、企業から今後の経営の方向や若者の意見を求められることもある（表1のNo. 8、No. 9など）。さらに、企業・団体側にご協力を特に持ちかけて研究を行う場合もある（表1のNo. 1、No. 2、No. 3、No. 4など）

## 2.2 学生への活動のヒントの提供

地域の活性化に学生が自主的に参加していくことをバックアップすることを第一に助言を行っている。学生の実践を単なる活動に終わらせるのは非常にもったいない。したがって、学術的にもなんらかの意味のあるものとなるように対象の特徴も考慮し、経営学・工学の理論や研究方法を提示し指導している。つまり、学生と教員がともに知恵を出し合いながら一体となって地域の活性化に貢献すべく実践と研究を進めている。

## 3. 学生参加による地域活性化の取り組み事例

従来から、研究対象に対してインタビュー、アンケート調査、インターンシップでの参与観察などを中心に質的データを扱う定性的アプローチをとってきた。ここ数年は感性工学の手法及びテキストマイニングという量的データを扱う定量的アプローチも研究対象に応じて採用している。これは、経営学的な研究においても、可能な範囲で定量的なアプローチを組み込みたいという考えからである。

因子分析、テキストマイニングについては、ある程度容易に使用できるソフトウェアが無料で提供されてきていることも、その背景にある。

学生参加の地域活性化の取り組みの一部を着目視点から分類し表1, 2に示した。着目視点ごとに、主なものにつき、研究対象、研究へのアプローチ方法を紹介する。

### 3.1 感性工学（因子分析）

感性工学の先駆者である長町によれば、「感性工

学」の定義は次の通りである<sup>1)</sup>。感性工学とは、「商品に抱いている心理的イメージを具体的な商品設計に翻訳し表現する技術」のことである。生活者が商品を購入したいと考えたときに、漠然とながらも「落ちついていて使い勝手がよくて……」といろいろな想像するはずである。このようなイメージをここでは感性とっており、生活者のこの漠然とした感性を商品の設計に具体的に表現する技術のことをいう、と述べている。

#### (1) 中小企業における従業員の満足度とモチベーションに関する調査分析<sup>2)</sup>

近年、日本政府は中心政策の一つとして「多様な働き方を可能とするとともに、中間層の厚みを増しつつ、格差の固定化を回避し、成長と分配の好循環を実現するため、働く人の立場・視点で取り組む」（首相官邸ホームページ）いわゆる“働き方改革”に注力している。あらゆる企業において、従業員の満足度やモチベーションは業績と大きな関係性があると考えられるが、豊富な経営資源を持たない中小企業ではなおさらその傾向が強い。

国内でもとりわけヒト志向型経営に注力する中小企業2社（製造業およびサービス業）について、文献調査とヒアリングによる事例研究を行った。次に、その結果と先行研究をもとに質問紙法（アンケート調査）を採用して従業員の満足度とモチベーションの分析を行った。さらに因子分析とクラスター分析によって量的分析を行い、中小企業における従業員の満足度を上げる要因とそのメカニズムについて考察した。

#### (2) 花卉ベンチャービジネス経営に資する顧客ニーズ把握と個人消費拡大のための評価手法開発—因子分析による感性評価に基づく顧客ニーズの抽出<sup>3)</sup>

農業のビジネス化、特に第一次産業が主力産業である地方における農業のビジネス化は、日本の喫緊の課題である。ここでは、高知市に本社を持つ花卉園芸ベンチャー起業2社の起業から事業化に至る経緯に関する定性分析による事例研究を行い、これら2社が今後経営上重視している個人観賞用花卉の販路拡大を意図した顧客ニーズ把握のためのアンケート調査を行った。これらのデータをもとに因子分析を行い、感性工学的手法に基づいた評価手法の開発を試みた。

本研究はJSPS 科研費 15K03670 の助成を受けることになる契機となった。

### 3.2 テキストマイニング

テキストマイニングについては、樋口<sup>4)</sup>が次のように解説している。質的データの中でも特に文章型すなわちテキスト型のデータを分析する方法で、情報科学の分野で活発に研究が行われている。テキストマイニングでは、コンピュータによってデータの中から自動的に言葉を取り出し、さまざまな統計手法を用いた探索的な分析を行う。それによってパターンやルール、ひいては知識の発見を目指す。

具体的には、自由記述・インタビュー記録・新聞記事など、さまざまな社会調査データが分析対象となる。企業の経営分析のために、数値データ以外の文字列を対象としたデータマイニング手法が発達している。2008年頃から経営学の分野でも援用が図られている。通常の記事データを解析し、その文書データ内の文節や単語の出現頻度の傾向を分析しながら、経営上有用な情報を入手することができる。

- (1) 人を大切にせる企業における従業員モチベーション維持向上に資する言葉の分析— テキストマイニングによるデータ解析<sup>5)</sup>

ヒト志向の経営に積極的に取り組む企業経営者の発する言葉（文字データ）を解析した。樋口耕一氏の開発したKH-Coderを使用し、計量テキスト分析を行なった。

- (2) テキストマイニングによる老舗旅館の口コミ評価分析から見る県経済の活性化

宿泊施設の口コミデータ（文字データ）をテキストマイニングによって分析し、現状と課題を把握し、宿泊客のサイレントマジョリティを発掘することで、老舗旅館のマーケティング力向上に資する改善のための要因とメカニズムを分析した。

### 3.3 ネガティブ・フィードバック

繁樹<sup>6)</sup>は、ネガティブ・フィードバック（ダメ出し）とは、「相手の態度や行動、考え方に対して否定的な評価を示す言語コミュニケーション」である。ダメ出しとは相手の欠点や弱点を指摘してやり直しを命じることである。自分に求められていることが何かを知り、それに応えることでより良いものを創り上げていくことができるようになる。このようなダメ出し力は、親と子、上司と部下、日本人と外国人の関係を良くする方向に活かすことができると述べている。

- (1) 職場のパフォーマンスとネガティブ・フィードバック<sup>7)</sup>

近年、職場の従業員の人材育成につながるモチ

ベーション維持向上が求められており、これが職場のパフォーマンスに大きく影響する。社会心理学の知見を援用し、ネガティブ・フィードバックが職場のパフォーマンスにどのように影響するのかについて、アンケート調査法と量的分析をもって検証した。

### 3.4 人的資源

- (1) 中山間地域における大学生による農業組織のマネジメントと人的資源集合<sup>8)</sup>

学生自身が農業団体を設立し、高知で農業に取り組んでいる。この団体の設立構想から設立までの経緯、その後の取組、今後の構想、土佐町との関係、地域とのつながり等について、インタビューおよび直接観察の手法を通じて、一次資料収集を行った。ここから得られた知見をもとに引き続き定点観測や継続的な参加観察を行うという手法を用いて、ケース研究を実施した。中山間地域における大学生の農業組織運営の初期と現在の変化を示し、人的資源集合を意識した農業組織マネジメントを示した。

### 3.5 企業戦略立案の支援

- (1) 地域活性化のためのBSCを活用した戦略立案・企業環境分析に関する調査分析<sup>9)</sup>

高知市本社のリフォーム企業の事例をもとに、財務の視点（過去）、顧客の視点（外部）、内部業務プロセスの視点（内部）、イノベーションと学習の視点（将来）の4つの視点から経営戦略立案や企業経営分析を行い、ビジネスの因果関係を洗い出して因果関係の「見える化」を進め、経営改善するプロセスを分析検討した。

- (2) 6次産業化のための農業生産法人における戦略立案支援と事業価値創造<sup>10)</sup>

JAが出資した農業生産法人株式会社南国スタイルの取り組み事例をもとに、経営者の緊密な協力を得ながら、起業から事業化に至るビジネスプロセスについて1年以上考察分析を進めた。特にインターシップを含めた継続的参加観察、市場や経営環境の変化に合わせた形でフレキシブルに適合させる経営戦略立案および実行評価のフレームワークにバランスト・スコアカード（BSC）を用いた。

### 3.6 観光資源

- (1) 観光の視点による非日常性のデザインを通じた大学生の地域メッセージの発信<sup>11)</sup>

学生が自ら企画立案して地域のための情報交流学生団体CONEを設立し、高知県香美市地域活性

化に係る事業助成金を得ながら、地域に隠された独自の魅力を伝えて観光に活かそうとフリーペーパーを毎月 500 部以上発行して好評を得ている。冊子を通じて学内外地域の情報交流を目的に積極的に活動している。この活動を地域創生のプロセスの視点から分析した。

(2) 地域資源からコンセプトを創出する NPO 砂浜美術館によるサステナビリティと価値提供<sup>12)</sup>

高知県黒潮町において長年継続運営されている砂浜美術館の取り組みについて、筆者らが 2 年以上にわたり継続的参加観察を行っている事例調査研究をケースとして分析を行った。今後は、①地域との更なる連携協力体制を強化し、②砂浜美術館自体のコンセプトや思いを大切にしながらも収益を確保するシステムを確立し、③自立自存の永続事業体として独立強化された組織能力の構築と展開を図ることが目標であることを述べた。

### 3.7 6 次産業化

(1) 中山間地域におけるビジネス創造と 6 次産業化<sup>13)</sup>

首相官邸の推進する地方創生は①若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、②「東京一極集中」の歯止め、③地域の特性に即した地域課題の解決の 3 つの視点から地域活性化を目指すという。筆頭発表者の豊田祥平は、卒論調査で中山間地域におけるビジネス創造と 6 次産業化についての成功事例をケーススタディー化しようと試みている。2 年生の頃から、この分野で全国的に有名な馬路村でインターンシップやヒアリング調査を進めてきた。ここでは、人口 1,000 人の中山間地域馬路村が必ずビジネスで年商 35 億円にまで成長しているプロセスについて、継続的経過観察法によって調査した。

(2) 地方における農林業の 6 次産業化の調査経過報告<sup>14)</sup>

6 次産業化の実態調査の中間報告である。地方の天然資源を活用して意欲的に事業に取り組む企業を事例対象として調査した。時系列要素と一次産業、二次産業、三次産業それぞれでの取り組み要素を明らかにする「6 次産業化ステップ分析の枠組み」を提示し、各社の取り組みの要素を分析した。

### 3.8 高大連携

(1) 高知県の町における地域活性化のための高大連携「仁淀ブループロジェクト」<sup>15)</sup>

伊野商業高校を中心として、地方自治体、商店街、観光協会などが、大学と連携しながら地域の情

報発信や商品開発を通じて地域課題解決能力の醸成と人材育成に取り組んでいる。高知県の町における地域活性化のための高大連携「仁淀ブループロジェクト」を報告した。

### 3.9 実態調査・分析

(1) 地域活性化のための海産物ビジネスによる付加価値創造<sup>16)</sup>

近年、地域活性化は、政治的にも学際的にも重視されている国家的課題の一つである。筆頭発表者の丸井真貴は、徳島県阿南市出身で、祖父母が漁師であった。幼い頃から漁業に惹かれ、月に 1 度、高知県中土佐町で有名な田中鮮魚店を訪れている。自らは高知工科大学マネジメント学部にも所属して地域活性化の調査研究に取り組みながら、長期休暇には中土佐町に泊まり込みで勤務して地域活性化の事例を調査した。インタビューやインターンシップを通じて調査した高知県中土佐町における地域活性化のためのビジネスプロセスについて報告した。

## 4. 今後に向けて

経営系と工学系が共存している高知工科大学の強みである文理の発想を生かして学生と楽しみつつ実践と研究を進めてきた。その成果は、学会発表、論文投稿という形で学外にも発信している。

2015 年 4 月、高知県庁の主導のもと、高知県産学官民連携センター（愛称：ココプラ）が開設された。ココプラは、新たな事業展開に挑戦する企業や地域を後押しするため、「知の拠点」「交流の拠点」「人材育成の拠点」という 3 つの拠点機能を持つ<sup>17)</sup>。ココプラとの連携も魅力的である。地域の活性化という観点でのテーマは無尽蔵にある。

地域との関わりを体験した学生は、地域のために働きたいという思いがさらに強くなるようである。地域に根ざした企業に職を求める学生もいる。大学時代の経験が、学生の就職希望先に影響を与えていると思われる。就職活動における企業との面接においても、本稿で紹介した学生時代の活動に関心を持っていただくことも多い。高知県の地元就職の期待にも少しは貢献していると思われる。したがって、本人のキャリア形成を考え、どのような体験の場を提供するのも、教員にとって大変重要なことと考える。

## 5. 謝辞

筆者の一人である井形は教育講師として高知工

科大学に2010年に奉職し、縁あって経済・マネジメント学群の桂信太郎教授と共同で地域企業を中心に調査・研究を始めた。その間、桂教授の勧めで応募し、科研基盤C（課題番号15K03670、代表者：井形元彦、分担者：桂信太郎、繁榎博昭）をいただくことができたのも、研究を進めるうえで大いに助かっている。本報告では、今までの桂教授とともに行なってきた学生を巻き込んだ調査・研究について振り返ってみた。このような機会を得ることができたことに対し、桂教授、桂研究室の学生諸君に感謝いたします。

## 文献

- 1) 長町三生, “感性工学とは(感性と繊維製品)”, 繊維学会誌, vol. 50, no.8, pp. 468-472, 1994年.
- 2) 関田良彦, 桂信太郎, 井形元彦, “因子分析による従業員の満足度とモチベーションに関する調査分析”, 人を大切にする経営学会第3回全国大会(駒澤大学深沢キャンパス), 2016年8月.
- 3) 小田美紀, 尾野田紗希, 桂信太郎, 井形元彦, “花卉ベンチャービジネス経営に資する顧客ニーズ把握と個人消費拡大のための評価手法開発—因子分析による感性評価に基づく顧客ニーズの抽出—”, 日本ベンチャー学会全国大会(東京大学), 2014年11月.
- 4) 樋口耕一, “社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して”, ナカニシヤ出版, 2014年3月.
- 5) 福田龍星, 桂信太郎, 井形元彦, “人を大切にする企業における従業員モチベーション維持向上に資する言葉の分析—テキストマイニングによるデータ解析—”, 人を大切にする経営学会第3回全国大会(駒澤大学深沢キャンパス), 2016年8月.
- 6) 繁榎江里, ダメ出しコミュニケーションの社会心理—対人関係におけるネガティブ・フィードバックの効果, 誠信書房, 2010年12月15日.
- 7) 関川はるか, 桂信太郎, 井形元彦, “職場のパフォーマンスとネガティブフィードバック”, 日本生産管理学会第44回全国大会講演論文集, 日本生産管理学会, 北海道科学大学, pp. 235-238.
- 8) 長谷達弥, 桂信太郎, 井形元彦, “中山間地域における大学生による農業組織のマネジメントと人的資源集合”, 研究論文集「地域活性研究」Vol. 7(2016).
- 9) 多田有里, 桂信太郎, 井形元彦, “地域活性化のためのBSCを活用した戦略立案・企業環境分析に関する調査分析”, 研究論文集「地域活性研究」Vol. 5(2014).
- 10) 谷川恵子, 桂信太郎, 井形元彦, “6次産業化のための農業生産法人における戦略立案支援と事業価値創造”, 地域活性学会全国大会(2014).
- 11) 上総毬椰, 桂信太郎, 井形元彦, “観光の視点による非日常性のデザインを通じた大学生の地域メッセージの発信”, 研究論文集「地域活性研究」Vol. 7(2016).
- 12) 福良冨香, 桂信太郎, 井形元彦, 村上健太郎, “地域資源からコンセプトを創出するNPO 砂美術館によるサステナビリティと価値提供”, 研究論文集「地域活性研究」, Vol. 6, No.1(2015).
- 13) 豊田祥平, 桂信太郎, 井形元彦, “中山間地域におけるビジネス創造と6次産業化”, 日本生産管理学会, 全国大会(福岡工業大学), 2015年3月.
- 14) 桂信太郎, 井形元彦, “地方における農林業の6次産業化の調査経過報告”, 高知工科大学紀要, 12巻, 1号, pp. 187-193, 2015年7月.
- 15) 尾上夏菜, 吉田美遊, 桂信太郎, 井形元彦, “高知県いの町における地域活性化のための高大連携「仁淀ブループロジェクト」”, 地域活性学会, 第8回研究大会(長野県小布施町)大会論文, 2016年9月.
- 16) 丸井真貴, 桂信太郎, 井形元彦, “地域活性化のための海産物ビジネスによる付加価値創造”, 日本生産管理学会全国大会(2014)大阪成蹊大学, 2014年3月.
- 17) 佐藤暢, “高知の産学官民連携～ココプラの取り組みを中心に～”, 高知工科大学紀要, 13巻, 1号, pp. 1-9, 2016年7月.

表 1. 学生参加の地域活性化の取組み (1)

NO	着目視点	テーマ	研究対象	参加学生	主な研究アプローチ	学会発表・論文投稿
1	感性工学 (因子分析)	二種化する総合型地域 スポーツクラブにおけ る因子分析によるニー ズ調査	高知県内の4つ の総合型地域ス ポーツクラブ	菅原 友奈 坂本 千明	アンケート調査法、 因子分析	地域活性化学会第8回 研究大会(長野県小 布施町)大会論文集、 2016年9月
2	感性工学 (因子分析)	因子分析による従業員の 満足度とモチベーショ ンに関する調査分析	「日本で一番大 切にしたい会 社」にて表彰さ れた2社	関田 良彦	質問紙(アンケート 調査法)、インタビ ュー、因子分析	人を大切にする経営 学会第3回全国大会 (駒澤大学深沢キャン パス)、2016年8月
3	感性工学 (因子分析)	花卉ベンチャービジネ ス経営に資する顧客 ニーズ把握と個人消費 拡大のための評価手法 開発—因子分析による 感性評価に基づく顧客 ニーズの抽出—	高知県M園芸 花卉(ピオラ)	小田 美紀 尾野田紗希	感性工学、 インタビュー	日本ベンチャー学会 全国大会(東京大学) (2014)
4	テキスト マイニング	人を大切にする企業に おける従業員モチベー ション維持向上に資する 言葉の分析—テキスト マイニングによるデー タ解析—	ヒト志向型経営 に注力する中小 企業2社(製造 業およびサービ ス業)	福田 龍星	企業経営者の発す る言葉(文字デー タ)の解析	人を大切にする経営 学会第3回全国大会 (駒澤大学深沢キャン パス)、2016年8月
5	テキスト マイニング	テキストマイニングに よる老舗旅館の口コミ 評価分析から見る県経 済の活性化	高知市内の老舗 旅館	藤本 愛理	口コミのテキスト マイニング	—
6	ネガティブ・ フィードバック	職場のパフォーマンスと ネガティブ・フィードバ ック	高知県内の5つ の企業(喫茶店 経営企業、マー ケティングリ サーチ兼出版業 社、不動産仲介 企業、スーパー マーケット、居 酒屋屋 運営企業)	関川はるか	質問紙(アンケート 調査法)、行動観察 法	日本生産管理学会『第 44回全国大会講演論 文集』日本生産管理 学会(北海道大学) pp. 235-238, 2016年
7	人的資源	中山間地域における大 学生による農業組織の マネジメントと人的資 源集合	学生団体による 農業実践	長谷 達弥	人的資源集合 フレームワーク、 フィールドワーク	研究論文集「地域活性 研究」Vol. 7, 2016
8	企業戦略 立案の支援	地域活性化のための BOCを活用した戦略立 案・企業環境分析に関 する調査分析	高知県内 リフォーム会社	多田 有里	原因・影響MAP、 外部・内部環境、 BSC	研究論文集「地域活性 研究」Vol. 5, 2014
9	企業戦略立 案の支援	6次産業化のための農業 生産法人における戦略 立案支援と事業価値創 造	高知県農人法人 南国スタイル	谷川 恵子	インターンシップ、 インタビュー、定期 的な検討会	地域活性化学会全国 大会(2014)

表2. 学生参加の地域活性化の取組み (2)

NO	着目視点	テーマ	研究対象	参加学生	主な研究アプローチ	学会発表・論文投稿
10	観光資源	観光の視点による非日常性のデザインを通じた大学生の地域メッセージの発信	学生による地域の魅力発信	上総 穂椰	フィールドワーク、地域創生プロセス	研究論文集「地域活性研究」Vol. 7, 2016
11	観光資源	地域資源からコンセプトを創出するNPO 砂浜美術館によるサステナビリティと価値提供	NPO 砂浜美術館	福良 冴香	インタシッブによる継続観察、インタビュー、発想法	研究論文集「地域活性研究」Vol. 6, No. 1, 2015
12	観光資源	室戸ジオパークをもとに地域の観光資源の創出と活性化策を探る	室戸ジオパーク	山村 萌	室戸ジオパーク推進協議会インタビュー、観光客インタビュー、イベント参加	—
13	6次産業化	中山間地域におけるビジネス創造と6次元産業化	高知県馬路村	富田 祥平	フィールドワーク、帰納法的アプローチによる定性分析	日本生産管理学会、全国大会（福岡工業大学）、2015
14	6次産業化	地域における農林業の6次産業化の調査経過報告	N農園、馬路村、Yきのこ	西岡 真弥	高知県農水局ヒヤリング、N農園、馬路村、Yきのこ、現状観察及びインタビュー	高知工科大学紀要(2015)
15	高大連携	高知県の町における地域活性化のための高大連携「仁淀ブループロジェクト」	高知県の町	尾上 夏菜	実地調査	地域活性学会 第8回研究大会（長野県小布施町）大会論文集、2016年9月
16	実態調査分析	香南市野市町の幸福度と人口増加要因について～野市町の魅力度向上へ提案～	香南市野市町	横田 真奈	文献調査、アンケート調査・分析	—
17	実態調査分析	地域活性化のための海産物ビジネスによる付加価値創造	高知県中土佐町鮮魚店	丸井 真貴	インターンシップ、インタビューによる継続観察	日本生産管理学会全国大会（2014）
18	実態調査分析	地域経済の発展に資するイノベーションと地域イノベーションの理論考察	徳島県神山町NPO 法人グリーンバレー・サテライトオフィス	窪 大輔	インタビュー、実地調査	日本生産管理学会全国大会（2012）
19	実態調査分析	茶業業界の現状とこれからについて	霧山茶業組合	小松 祐弥	高知県農業振興部、日本茶業中央会へのヒヤリング、現場観察	—

# Revitalization of Rural Areas through Student Participation — from a Research-focused Viewpoint —

Motohiko Igata<sup>1,\*</sup> Shintaro Katsura<sup>2,\*\*</sup>

(Received: May 8th, 2017)

<sup>1</sup> School of Information, Kochi University of Technology  
185 Miyanokuchi, Tosayamada, Kami City, Kochi 782–8502, JAPAN

<sup>2</sup> School of Economics & Management, Kochi University of Technology  
185 Miyanokuchi, Tosayamada, Kami City, Kochi 782–8502, JAPAN

\* E-mail: [igata.motohiko@kochi-tech.ac.jp](mailto:igata.motohiko@kochi-tech.ac.jp)

\*\* E-mail: [katsura.shintaro@kochi-tech.ac.jp](mailto:katsura.shintaro@kochi-tech.ac.jp)

**Abstract:** The opportunities often arises to meet with companies at university-sponsored seminars and student internships. Thus, receiving various consultation requests from companies for management support and the opinions of the younger generation. Additionally, students are making an effort to contribute to the community by setting up organizations. Universities located in rural areas are required not only to contribute to the revitalization of the area, but also to cultivate the human resources sought from society. To this end, students participate in educational research activities aimed at solving real-life problems. In this paper, we will introduce practical examples of students' and teachers' efforts aimed at revitalizing the region from a research-approach-focused viewpoint.